文化財をたずねて

No.21

道しるべをたずねて

発行　赤穂市教育委員会
編集　生涯学習課文化財係
(赤穂市加里屋81　TEL 43-6962)

江戸時代になると参勤交代制度の開始や経済活動の進展に伴い、五街道を典型とする基幹道路だけでなく、各地で道が整備された。貨幣経済が発展した元禄期以降は、商人・庶民層の通行も多くなり、街道には旅人が急増し、宿場も賑わいをみせるようになる。このころ、往来する人々のために、街道の道筋や追分（おいわけ）に行き先や距離を示した道しるべが建てられた。これを道標（どうひょう）という。また、主要な街道だけでなく、村々を結ぶ道にも大小さまざまな道標がさかんに建てられるようになる。また、道標ではないが、東有年の光明寺の町石（ちょういし）のように寺社仏閣への信仰の道を示したもの、名所旧跡への案内のための道しるべなど、さまざまな時代にいろいろな目的で建てられた道しるべが見られる。当時は木製のものもあったと思われるが、現在残されているものの多くは石製であり、それも残念ながら、原位置からは動かされて保存されているものが多い。

明治時代になると、政府は各府県に里程元標（りていげんぴょう）の設置と、陸地の道程の調査を命じている。大正８年（1919）には、旧道路法施行令によって、各市町村に一個づつ道路元標（どうろげんぴょう）を設置することとされ、高さ60㎝、25㎝角程度の道路元標が設置された。現行の道路法では、道路元標は道路の付属物とされているが設置義務はないため、失われたり移築されたものが少なくない。

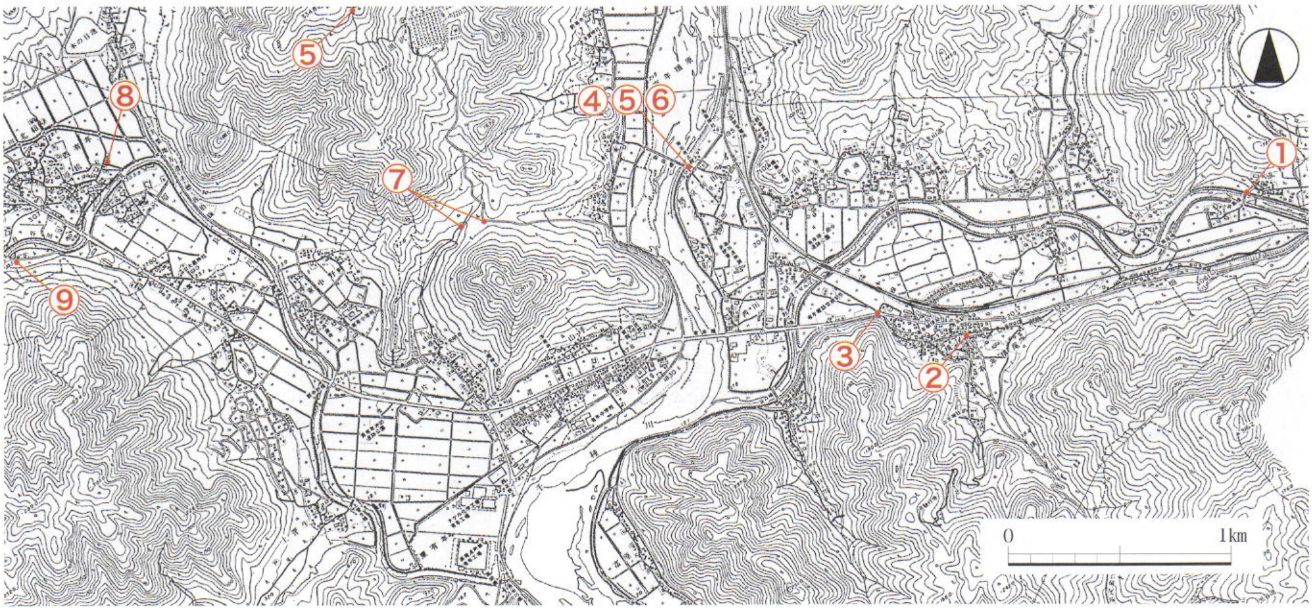
車社会となりナビゲーションシステムも進化した現在、あまり顧みられなくなった道標や道路元標であるが、近世から近代にかけての交通の歴史や、地域の成り立ちを示す貴重な遺産といえる。

以下、「高さ」として記した数値は、現在の地表面からの可能な範囲で計測した数値である。名称は、地元で呼び習わされているものについてはその名を使用したが、それ以外は小字名や俗称等を付して便宜的に呼称した。

①成林の道標

①成林の道標【有年牟礼】

矢野川にかかる中島橋の北詰に立つ。高さ70㎝、22㎝角の花崗岩製の道標で、石標の隅角を面取りした部分に「右上郡　左ウネエキ　道」と記している。他の面には、建立に関わった人名等を列記するとともに、「大正十二年十月」と記しており、その建立年



を知ることができる。

②有年村道路元標【有年横尾】

JR有年駅の南、「有年駅前」交差点から県道高雄有年横尾線を南に入り、かつての旧道との交差点付近に立つ。戦後の県道拡幅時に撤去されていたが、平成３年（1991）２月にもとの位置近く（旧位置は、北側の旧道の辻角）に立て直された。高さ67㎝、25㎝角の花崗岩製の石標で、表「有年村道路元標」、裏「兵庫縣」と刻む。

②有年村道路元標

③堂ノ元（塚ノ元）の道標【有年横尾】

国道２号拡幅改修時に取り除かれていたが、平成３年（1991）２月にもとの位置近く（旧位置より西方）に建て直された。高さ99㎝、24㎝角の花崗岩製の道標で、「右 上郡 鳥取 道」「左 岡山 廣嶋 道」と２面に記し、その両面の角部を面取りした部分に「御大典記念」と刻んでいる。また、他面に「昭和三年」とあり、建立年がわかる。

③堂ノ元の道標

④東有年の道標【有年楢原】

旧国道沿いの東有年集落から西の県道赤穂佐伯線に出たところにあった道標であるが、道路拡幅や度重なる折損事故等により、現在は赤穂市立有年考古館の敷地内に移築保存されている。全長157㎝（加工部分は110㎝）、18㎝角の花崗岩製の道標で、文字は２面に記され「左　王うく王ん　すぐあかほ城下三り」、他面に「王うく王ん」と刻む。「王うく王ん」とは往還のことで、街道の意味。つまり、左へ行けば赤穂城下まで３里、右へ行けば西国街道という意味である。

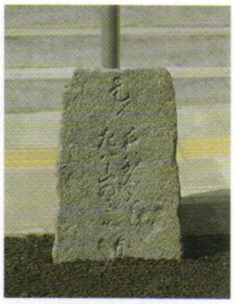
④東有年の道標

⑤光明寺の町石

⑥有年考古館収蔵標柱

⑦寺山道標

⑦寺山道標



⑧原組の道標

⑤光明寺の町石【東有年】

黒沢山光明寺は、西播磨の古刹として知られ、その旧地は標高334mの黒沢山山頂近くにある。麓の有年楢原から山上に至る参道には、本堂から麓に向かって一町ごとに町石が建てられていた。町石は、五輪塔の地輪（基礎部分）を長くした長脚五輪卒塔婆形式のもので、基礎部に経典名や町数、願主名などが刻まれており、紀年銘はないが室町時代中期頃のものと思われる。現在、山上に４基、赤穂市立有年考古館の敷地に２基が保存されており、赤穂市指定文化財（平成13年12月19日指定）となっている。

⑨一里塚跡

山上の４基はいずれも現在地よりやや下の山腹にある養鶏場造成時に出土したもので、完存しているものは全長84㎝前後、幅17㎝前後を測る花崗岩製である。欠損により不明の１基のほかは四町石、六町石、八町石である。有年考古館の２基は、近在の農家にあったものといい、完存品はないが十一町石、十五町石である。

⑥有年考古館収蔵の木製標柱【有年楢原】

赤穂市立有年考古館に収蔵されている木製の標柱で、木部の腐朽が著しいが現状で長さ164㎝、23㎝×23.5㎝を測る。四面の表面に文字を彫り込んでいるが、判読不可能な部分も多い。正面となる部分に「□□（横尾カ）標柱」とあり、続いて「備前三ツ石」「正條」の標柱までの距離が記載されている。他面にも「神戸□（元カ）標」や「□（梨カ）ヶ原標柱」までの距離を記しているほか、「明治三拾三年二月」と建立年月日を記している。明治期に各府県ごとに建てられた里程元標である可能性が高い。

⑩高雄村道路元標

⑦寺山道標【東有年】

東有年の片山から谷筋の道を登り、砂防ダムから北東へ100mほど登った所にあり、かつて楢原と黒沢への道を示したものである。高さ66㎝、17㎝×15㎝の花崗岩製で、「右ならはら　左くろさは」と刻む。さらにそこから三軒屋への峠の頂上付近にも高さ56㎝、15㎝×14㎝の花崗岩製の道標があり、「右くろさは　左うね」と記している。

⑪上河原道標地蔵

⑧原組の道標【西有年】

原組集落近くの長谷川改修の際、川底から発見されたという高さ40㎝、幅25㎝の小さな道標で、「是ゟ　右ハかみこを里　左ハ山のさと　道」と記されている。現在は、原組集会所の玄関先に移築保存されている。

⑫大避神社境内の道標

⑨一里塚跡【西有年】

西有年の上組橋の東詰め近く、西国街道沿いにある。現在は「安井敏一先生の碑」があり周囲には石垣の基底部が残されているにすぎないが、かつては一里塚があった。一里塚は、江戸時代に幕府の指示により全国の主要な街道に整備され、土盛りや標識を立て往来の目印とした。一里塚の脇にはエノキなどの木が植えられ、木陰で休息を取れるようになっているところも多かったという。有年横尾の通称「塚の元」（有年駅の西側、小字名は「堂ノ元」）にも一里塚があったと伝えられ、そこからここまでが一里（約4㎞）であった。

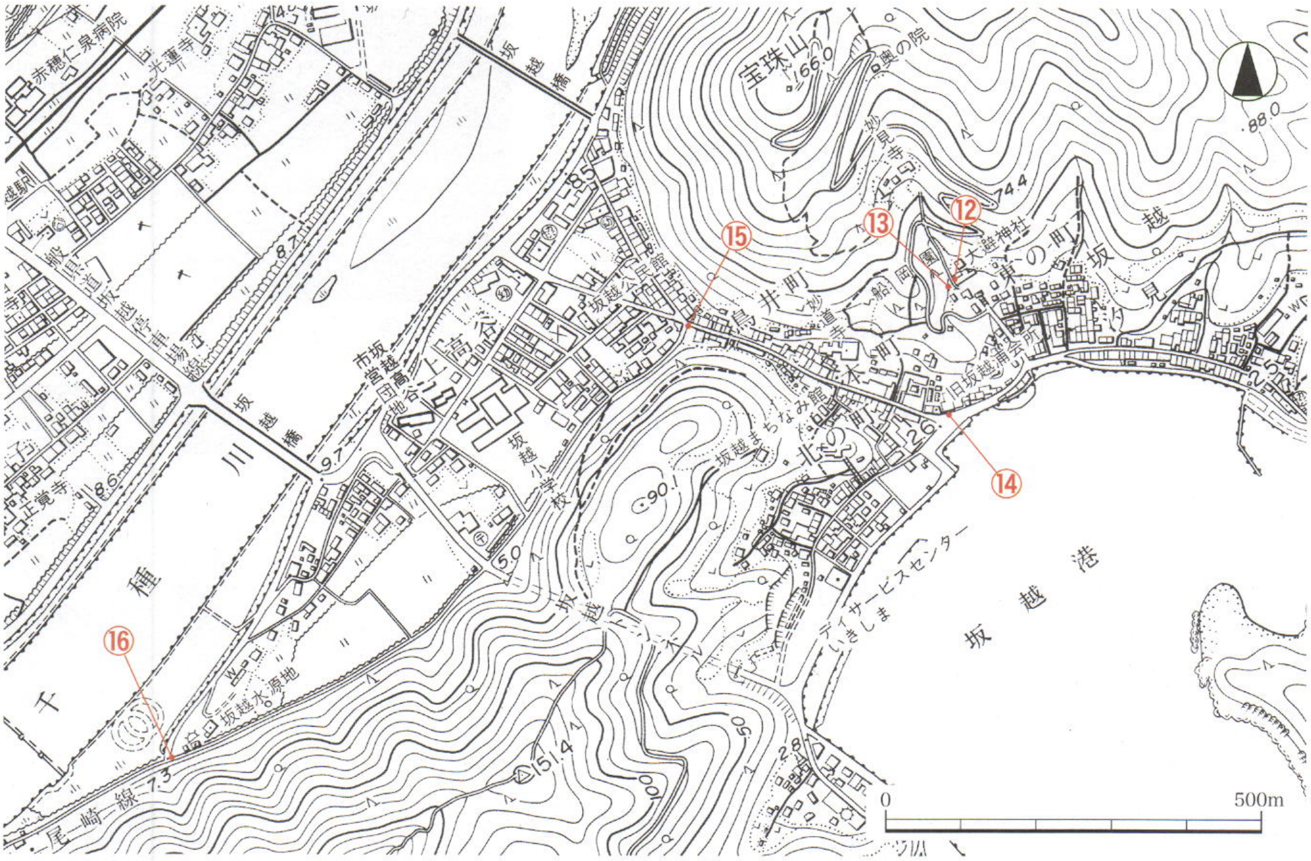
⑩高雄村道路元標【高雄】

周世の八幡神社鳥居前の県道高雄有年横尾線脇に立つ。高さ66㎝、25㎝角の花崗岩製で、正面に「高雄村道路元標」、背面に「兵庫縣」と記す。

⑬船岡園の道標

⑪上河原道標地蔵【木津】

千種川沿いの県道赤穂佐伯線を木津井堰から400ｍほど上流側に遡ったガードレール脇にある。高さ68㎝、20㎝×18㎝を測る花崗岩製のもので、正面の上部には半肉彫



りの地蔵、その下に「右城下道　左阪越浦　下道　牛馬無用」と刻まれている。「下道」に牛馬が入ってはならないのは、城下への道の脇を流れる上水道導水路の衛生管理のためであろう。

⑫大避神社境内の道標【坂越】

坂越の大避神社の境内、絵馬堂の西側裏にあり、高さ118cm、18cm角を測る花崗岩製の道標である。表側に「観音堂之道　くわんのんみち」と並記し、側面に「願主　大西吉壽」と建立者の名が記されている。境内裏の宝珠山には、真言宗の寺院である宝珠山妙見寺があり、坂越湾を一望できる絶景の場所に建つ観音堂は赤穂市指定文化財となっている。

⑬船岡園の道標【坂越】

大避神社境内西側の谷川を渡る金欄橋の東詰、船岡十三景の石碑と対に立つ。高さ83cm、幅24cm、厚さ11cmを測る花崗岩の角柱で、折損しているが表に「右高徳卿道」と記し、側面に「昭和元年建武中興六百年紀念奥［以下、地中で不明］」とある。境内から児島高徳を顕彰した船岡園への案内のための道しるべである。

⑭坂越村道路元標【坂越】

「坂越港」の三叉路の北側、旧坂越浦会所の前に建つ。高さ58cm、25cm角の花崗岩製で、正面に「阪越村道路元標」、背面に「兵庫縣」と記す。

⑮木戸門跡の道標【坂越】

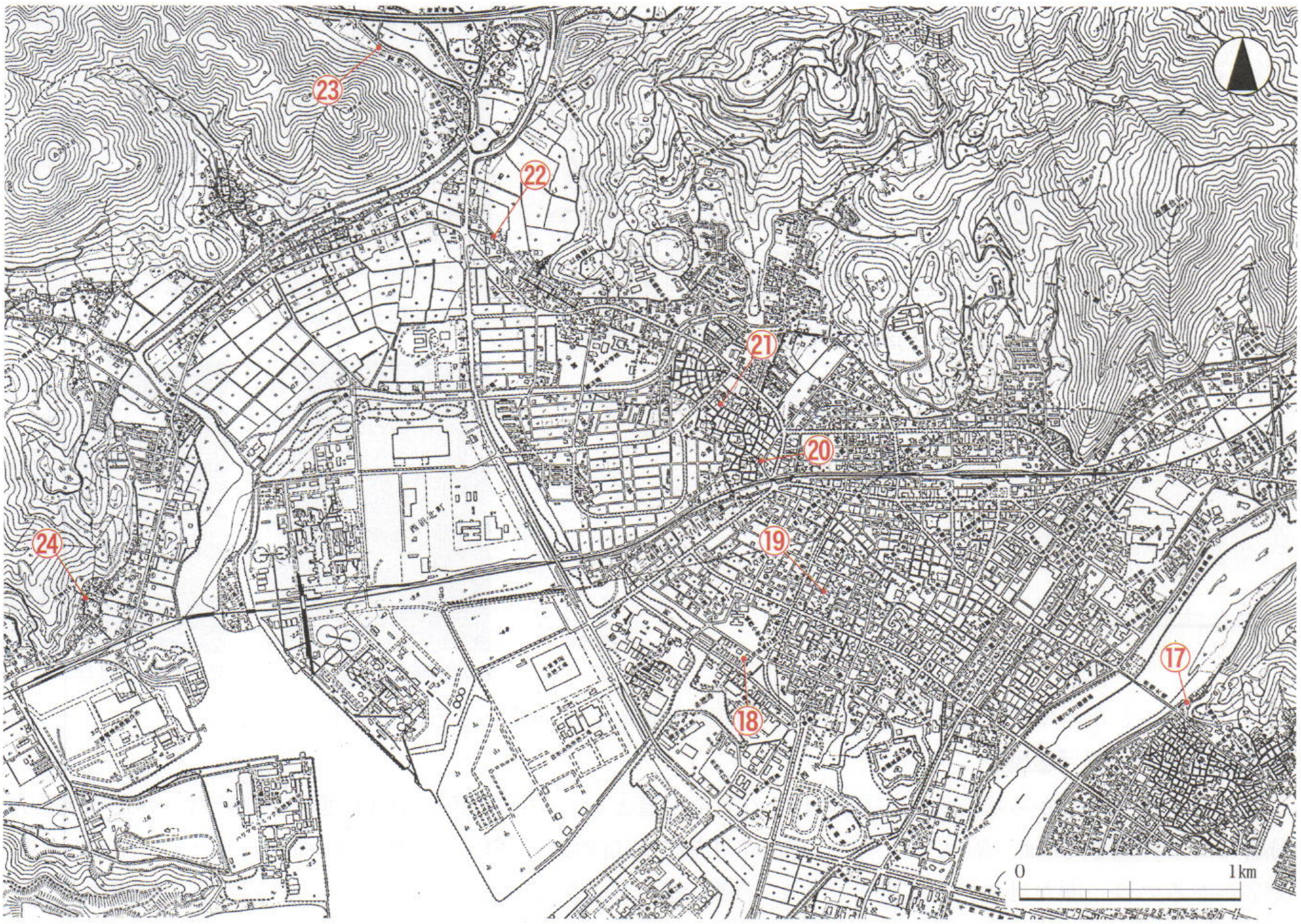
かつては高谷駐在所付近にあったが、平成３年（1991）に現在の木戸門跡広場の隅に移築保存された。高さ94cm、幅21cm、厚さ18cmを測る凝灰岩製の道標である。「右　み那と」、他面に「右大坂　左城下　道」とする。右方面が坂越の港及び大坂方面の道、左が赤穂城下への道を示している。

⑭坂越村道路元標

⑮木戸門跡の道標

⑯下高谷の元標

⑰尾崎村道路元標



⑯下高谷の道標【坂越】

下高谷の坂越水源地南の県道周世尾崎線の脇に立つ高さ 110㎝、18㎝角の花崗岩製の道標である。文字は 2 面にあり、「右さこし道　諸国出船所」、他面に「左大坂道」と記している。平成 3 年（1991）に現在地に移築保存された。

⑰尾崎村道路元標【尾崎】

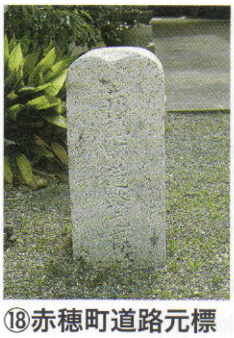
赤穂大橋の東詰の北東、かつて巖津橋があった場所にある子守地蔵の対面の路傍にある。石標は、高さ 64㎝、24㎝角の花崗岩で、正面に「尾崎村道路元標」、背面に「兵庫縣」と刻んでいる。

⑱赤穂町道路元標【赤穂】

かつては花岳寺の門前に建てられていたが、現在は赤穂市立民俗資料館の敷地内に移築保存されている。高さ 59㎝、25㎝角で、正面に「赤穂町道路元標」、背面に「兵庫縣」と記す。現在、旧位置には「加里屋道路元標跡」の碑が建てられており、背面に「平成二年三月移転復元　赤穂市」とある。

⑲上仮屋北の道標【城西】

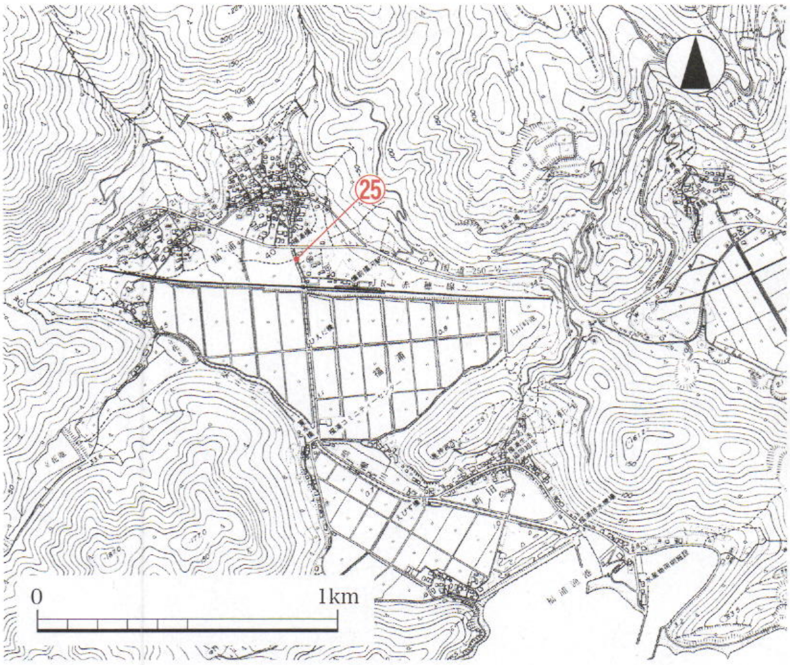
上仮屋の鷹の羽公園から 60m 西の四つ角の路傍に立つ。高さ 92㎝、幅 18㎝、厚さ 13㎝を測る凝灰岩製の道標である。左方向だけを指した道標で、文字面の欠損があるが「左　□坂道　義士もくぞふあり」と記しており、欠損部分はおそらく「大坂道」であろう。「義士もくぞふあり」とは、花岳寺に祀られている義士木像のことを示したものと思われる。西から城下に入った人に対して東への街


⑱赤穂町道路元標

⑲上仮屋北の道標

⑳塩屋広道の道標

㉑塩屋村道路元標



㉒新田居村の道標

㉓清水の道標地蔵

㉔鳥撫の道標

㉕福浦の道標

道の方向を示したものであるが、街道沿いの見所をも案内しているところがおもしろい。

⑳塩屋広道の道標【塩屋】

赤穂城下町西惣門から塩屋の阿弥陀堂までの道を広道というが、広道と村中小道への分岐点、赤穂塩屋郵便局前にある。高さ68㎝、幅32㎝、厚さ25㎝の花崗岩の自然石の道標で、現在はやや左に傾いて立っている。文字があるのは一面だけで、西に面して「右びぜん道」と記している。右方向、つまり広道側が街道であることを示している。

㉑塩屋村道路元標【塩屋】

かつての塩屋村会所の跡地である塩屋西児童遊園の北側にある。高さ55㎝、25㎝角を測る花崗岩製で、表に「塩屋町道路元標」、裏に「兵庫縣」と記す。本来は「塩屋村」とすべきところを「塩屋町」記されている。

㉒新田居村の道標【塩屋】

平成3年（1991）に新田居村の光浄寺の西の小公園に移築保存された高さ64㎝、幅28㎝、厚さ17㎝の花崗岩製の道標で、上部を山形に整形している。表示面は「右ひせん　左はま遍　道」と刻まれ、それ以外の面は粗い加工面となっている。ここから右に行けば大津を経て備前に至り、左の道を行けば塩田・浜に至ることを示している。

㉓清水の道標地蔵【大津】

県道岡山赤穂線沿い加賀苧橋の東にあり、地蔵菩薩像の台石に転用されたと推測される。正面には「川こしうね道」、左側には「左り　びぜん道」、右側には「施主　當村 清林　同 治澄　文化十一戌年三月」と刻まれている。「川こしうね道」とは大津川を渡り、西有年の横山に通じる道のことを指し、「びぜん道」とは帆坂峠を越えて備前に至る備前街道を指す。

㉔鳥撫の道標【天和】

鳥撫荒神社への石段西側にある高さ64㎝、幅28㎝、厚さ17㎝の花崗岩製の道標で、「右かたかみ　左□満　道」と記している。形状や加工及び文字の記載方法が㉒新田居村の道標に似ている。移築されたもので元の位置はわからないが、海岸通りの道路案内として、おそらくこの付近に建立されていたものと思われる。

㉕旧街道の道標【福浦】

かつて街道筋であった田渕橋の東詰にあり、失われていた道標を昭和63年（1988）に橋の整備時に新しく建て直したものである。高さ135㎝、32㎝×27㎝の花崗岩製で、「東　是より東　赤穂へ二里」、「北　田渕橋　道標」「南　旧街道　道標」「西　是より西　日生へ二里」と刻まれている。